

編集人：ぶくぶくの会 〒564-0025 吹田市南高浜町1-17-2A (総務)
TEL 06-6317-5598、FAX 06-6317-0936 Mail: so-mu@puku-2.com URL: www.puku-2.com
代表：馬垣安芳 編集長：上田かおり 1部200円
年間購読料：個人会員2000円 広報会員(3部)5000円
法人会員1口(5部)10000円 賛助会員(1部)10000円
振替口座00940-0-161341
「まねき猫通信」



題字：
塩澤 文男
(しおざわ・ふみお)

もくじ

とくしゅう こうじ ふ
特集：バリアフリー工事でバリアが増えた？-2
ひげき おおかわしょうがっこう むらかみひろし
リレーエッセイ：悲劇の大川小学校-村上博-4
ふうらいぼう につき きょうせい げんてん きょういくよりたかつねのぶ
風来坊日記-共生の原点は教育-頼尊恒信-6
いせ かしはく い ふじばやしえいこ
「お伊勢さん菓子博」に行ってみた-藤林詠子-7



にっこり

絵：このちゃん (かなみ もり 奏海の杜)

トリの眼・ムシの目・ニャンコの目

フェイスブックを通じて懇意になり
邂逅を得た神戸金史さんと初めて飲ん
だ。一年前の「相模原虐殺事件」で
19人が殺害され27人が負傷、犯人が
「障害者は生きていく価値がない」と
傲然と言い放ったその日の夜、神戸さん
は酔っ払いながら綴ったと言おう▲『障害
を持つ息子へ』「略」あなたが生
まれたことで、私たち夫婦は悩み考
え、それまでとは違う人生を生きて
きた。親である私たちでさえ、あな
たが生まれなかったら、今の私たち
ではないのだね。ああ、息子よ。誰
もが、健常で生きることができない。
誰かが、障害を持って生きていかな
ければならない。なぜ、今まで気づ
かなかつたのだろう。「略」息子
よ。君は、弟の代わりに、同級生
の代わりに、私の代わりに、障害を
持って生まれてきた。「略」息子
よ。そのまま、いい。それで、
うちの子。それが、うちの子。あ
なたが生まれてきてくれてよかつ
た。私はそう思っている。父より▲
大反響を呼んだ「詩」は放送番組
や単行本になり、翻訳もされて世界各地
で共感の旅を続けている。神戸さんは
放送の仕事に携わりながら、講演活動に
も忙しい。一年前、不覚にもこの「詩」
に気付ずにいた鈍感の罪を、執筆者が
償うこととあいなった「新宿ゴールデン
街」の夜でありました…(笑)。(ハギ)

吹田市

市役所本庁舎

チェックに行ってみると…

バリアフリー改修工事で バリアが増えた？



吹バリポツ (吹田のバリアフリー・交通アクセスをめざす会) 副代表 福西義信



吹田市役所

通路が狭いのに物や机が無造作に置いてある(2階)。



設計段階からの 当事者参画を

吹田市のバリアフリー・交通アクセスをめざす会「障がいのある人もない人も、子どもやお年寄りなど誰もが安心して、バリアフリー推進を図るために障がい当事者が集まり立ち

吹田市役所本庁舎は、「使いやすい、バリアフリーな市役所にしたい」という市長の意向で、昨年末から改修工事が進められてきました。ところが、今年1月、福西さんが本庁舎市民課についてみると、①窓口周辺の通路が狭く、車いすで回転できない、②記載台と休憩用のイスの間が狭く、人がたくさんいると車いすでは動けないなど、改修によって以前より使いにくくなっていました。また、③表示の仕方を変えているのですが、ルビやひらがなの表記がないため、わかりづらいなどの

「吹田のバリアフリー・交通アクセスをめざす会」は、障がいのある人もない人も、子どもやお年寄りなど誰もが安心して、バリアフリー推進を図るために障がい当事者が集まり立ち

問題点も見つかりました。このためバリポツは、担当課と話し合いを重ね、改善を求めてきましたが、改修工事が終わった4月にバリアフリーチェックを行ってみると、首をかしげざるを得ないところが、いくつも見つかりました。

市民総務室へバリアフリーチェックの結果をもとに意見交換をできる場を求める申し入れを行いました

市民総務室へバリアフリーチェックの結果をもとに意見交換をできる場を求める申し入れを行いました。福西さんに経過と問題点を聞きました。

権利制限は制度の趣旨に反する

差別解消法が施行されて1年が過ぎ、行政機関は少し当事者の意見を聞く姿勢ができてきたように見えます。要望や苦情を伝えると、すぐに対応してもらえようになつてきたからです。ただ、この法律には

の部署が多いこともわかりました。また「誰にでもわかりやすい市役所を目指して、課ごとに色わけしていく」というのですが、視覚障がい者とか色盲の人にはわからないし、案内板とは色の表示が異なってしまう、混乱が生じるなどの問題があります。

その後19日になつても変化がないため、結局今のままというところもありうると思つたので、公文書公開請求や市長あての要望書提出などをしてきました。市の回答では、「記載台やイスの配置場所を見直す」などの改善姿勢は表明されています。また、「レイアウトの変更などでは十分な対応が難しい部分については、代替手段の選択も含め、柔軟に対応するよう努めます」というものです。



すべての人に使いやすい

かかる。人がいない」などの理由で終わってしまう場合もあります。差別的な取り扱いや合理的配慮に関しては、行政が率先して施設改修や広報活動を行ってもらわなければいけないと感じています。これからの課題です。

5/17 アクセス関西ネットワーク総会 学習会より

バリアフリーの要求は、障がい者自身のエンパワーメント

尾上浩二
DPI 日本会議副議長

自立生活運動も含め障がい者運動の全部が、障がい者自身のエンパワーメントに関わりますが、特にバリアフリー運動は、社会との関係で自分たちが何を発信していくべきかを、自覚的に考えるという意味で、やりがいのある分野です。理由は、まず当事者参画の意義を具体的に示せるからです。当事者の声に耳を傾けることは、近年よく言われるようになっていますが、バリアフリーをめざした建物を、当事者抜きに造ると、できあがってみると使いにくくて、結局、費用が無駄になることはよくあります。計画段階から当事者を交えて作った方が、使い勝手もいいし、余計な費用もかかりませんので、当事者参画の意義を、具体的に伝えられます。

さらに、交通アクセス行動は、車いす利用者だけでなく、視覚障がい者も積極的に参加しました。DPIは、障がい種別を超えた連帯を掲げていますし、自立生活センターも同様ですが、同じ障がい種別で集まりがちになったりします。でも「使いやすい街づくり」という場合、「〇〇専用」となってしまうと、使い難くなってしまいます。そういう意味で、障がい種別を超えた取り組みは、意識化しなければならぬ課題です。

3番目は、当事者にとっての自己主張やエンパワーメントのトレーニングになることです。たとえば鉄道会社に要望を出したとしても、「はい、わかりました」と、すぐに実現するものではありません。これが当たり前で、あきらめず、相手の主張に、どう反論するのか？ こちらがどれだけ困っているかを、説得力をもって伝えていくトレーニングとなります。

もう一つは、私自身の経験からお話しします。大阪府の「福祉のまちづくり条例」制定運動では、子育て中のお母さんたちがよく賛同署名をしてくれました。「女の目で大阪の街を見る会」が作られ、一緒に交通局のモニタリングもやり

ました。実際、「誰もが使いやすい」というときには、障がい者だけでなく、ベビーカーを使うお父さん、お母さん、あるいは子どもたちにとってどうか？ という視点が絶対に必要です。運動の社会的意義がわかりやすいし、地域住民との連携が得やすいという点も重要です。



バリアフリー法の根本的見直しを

障がい者権利条約との関係でいえば、バリアフリー法の根本的見直しも必要です。権利条約は、「障がい者が保護の客体ではなく権利の主体である」という根本的な発想の転換を求めています。ここから出てくるのが、「差別の禁止と合理的配慮」であり、「他の者との平等」です。権利の主体として、障がいのないひと々と平等に地域で自立して暮らすし、社会参加ができることを求めています。そのために社会的障壁を除去し、合理的配慮としてバリアフリーを進めなければいけないのです。「使えない、利用できない」のは、差別である。「移動は権利」ということを、掲げて、バリアフリー法の見直しが必要です。

昨年度から始まった見直し検討委員会も、権利条約を基礎として、議論をリードしていくことが必要です。具体的には、ホームと車両の段差解消を、重点課題のひとつとしていますが、事業者の抵抗が激しくて、継続審査となりました。そのときに国交省が注目していたのが、大阪市営地下鉄の谷町線のホームと車両の段差解消の事例です。全国のバリアフリー運動を引っ張ってきたのは、関西です。関西の先進的事例や取り組みを発信してもらい、全国的なバリアフリー運動に、影響力と存在感を示して欲しいと思います。

だけではないからです。車いすで不便な場所は、高齢者やベビーカーなども使いにくい点が多かったりします。誘導ブロックも、視覚障がい者だけの利便性だと思われがちですが、知的障がい者や高齢者の道しるべになったりしています。

案内表示も、絵やピクトグラムを使うと幅広い年齢の方々が、わかりやすいものと変わります。エレベーターは、健常者にとっては便利なのは、乗る物ですが、車いす利用者にとっては絶対必要な移動手段です。

このように障がい者にとって必要なものは、高齢者や子育て世代にも使いやすい環境整備であり、社会全体の利益になっていくことがわかってもらえるでしょう。

こうした活動をとおして私たちは、様々な障がいを持った仲間が意見を出し合い互いを理解し、思いを共有してきました。当事者の意見が最初から取り入れられると、ユニバーサルな社会・環境ができていくのではないのでしょうか。今回の吹田市役所窓口改装も、計画段階から私たち（当事者）の意見を聞く姿勢があれば、もっと使いやすい・わかりやすいものになったはずなんです。

パリポツは、すべての人に利用ができるよう活動を行って行っています。今年度は、公園出入口のバリアフリー調査を行って行きます。多くの公園は、自転車・バイクの侵入を防ぐバリアフリーが設置されているため、車いす（ベビーカー）では入

り入れられず、安全安心な環境整備ができていくのではありません。今年度は、公園出入口のバリアフリー調査を行って行きます。多くの公園は、自転車・バイクの侵入を防ぐバリアフリーが設置されているため、車いす（ベビーカー）では入